



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

CITATION:

通信. 天界 1932, 12(136): 279-284

ISSUE DATE:

1932-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161991>

RIGHT:

	年次	干支	黑點數	東 株			年次	干支	黑點數	東 株	
				高 值	安 值					高 值	安 值
西曆 1878	明治 11年	戊寅	6.0	255.00	133.00	西曆 1905	38	乙巳	53.8	297.00	134.00
1879	12	己卯	32.3	304.00	80.00	1906	39	丙午	62.0	498.00	167.00
1880	13	庚辰	54.3	288.00	123.00	1907	40	丁未	43.5	780.00	93.00
1881	14	辛巳	59.7	330.00	204.00	1908	41	戊申	43.9	154.00	88.00
1882	15	壬午	63.7	247.00	130.00	1909	42	己酉	18.6	187.00	132.00
1883	16	癸未	63.5	228.00	155.00	1910	43	庚戌	5.7	245.00	161.00
1884	17	甲申	52.2	207.00	174.00	1911	44	辛亥	3.6	193.00	128.00
1885	18	乙酉	25.4	216.00	158.00	1912	45	壬子	1.4	172.50	135.00
1886	19	丙戌	13.1	494.00	192.00	1913	大正2	癸丑	9.6	163.00	131.25
1887	20	丁亥	6.8	434.00	213.00	1914	3	甲寅	47.4	152.25	103.90
1888	21	戊子	6.3	327.00	244.00	1915	4	乙卯	57.1	309.00	116.00
1889	22	己丑	7.1	377.00	255.00	1916	5	丙辰	103.9	480.90	219.00
1890	23	庚寅	35.6	364.00	253.00	1917	6	丁巳	80.6	331.00	148.00
1891	24	辛卯	73.0	314.00	232.00	1918	7	戊午	63.6	248.00	142.00
1892	25	壬辰	84.9	(休 業)		1919	8	己未	37.9	478.50	183.10
1893	26	癸巳	78.0	234.00	203.00	1920	9	庚申	26.1	550.00	100.50
1894	27	甲午	64.0	317.00	155.00	1921	10	辛酉	14.2	173.80	118.60
1895	28	乙未	41.8	476.00	221.00	1922	11	壬戌	5.8	166.00	105.00
1896	29	丙申	26.2	854.00	309.00	1923	12	癸亥	16.7	148.00	85.00
1897	30	丁酉	26.7	443.00	150.00	1924	13	甲子	44.3	137.80	106.10
1898	31	戊戌	12.1	200.00	119.00	1925	14	乙丑	63.9	188.00	113.00
1899	32	己亥	9.5	279.00	184.00	1926	15	丙寅	69.0	218.00	168.00
1900	33	庚子	2.7	218.00	133.00	1927	昭和2	丁卯	77.8	205.00	141.60
1901	34	辛丑	5.0	174.00	106.00	1928	3	戊辰	65.0	207.80	170.80
1902	35	壬寅	24.4	254.00	125.00	1929	4	己巳	38.9	178.40	111.90
1903	36	癸卯	42.0	197.00	158.00	1930	5	庚午		150.00	95.00
1904	37	甲辰	63.5	193.00	123.00	1931	6	辛未		167.00	107.00

(注意)大正元年以前の東株相場は年俸罫線より轉載せるにより一、二圓の相違あるは當然なり。又昭和5年と同6年も月俸罫線より轉載したるにより多少の相違あるを免れず。)

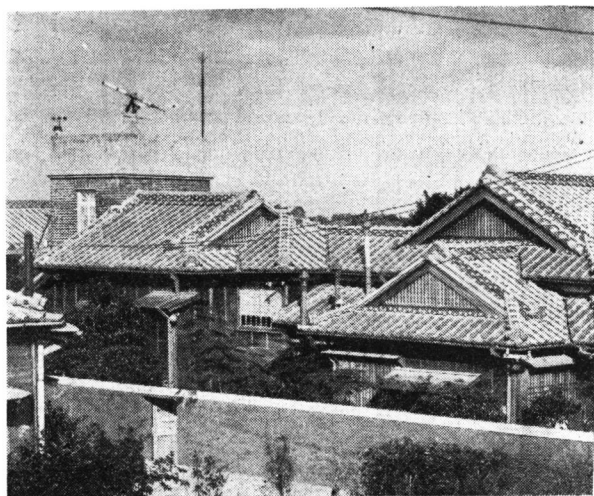
以上の表について考察するに明治初年より明治の末期迄の太陽黒點數はその消長に正比例して株價の消長ありしとは認め難きも壬干、癸干、甲干の年に於ては相場は概して安かりしことを認む。紙面に餘白なきを以て充分説明し能はざるが大正時代に入りては株價と太陽黒點とは正比例して消長し。干支は丙干より庚干に至る間に株式が昂騰し壬癸甲の干の年に株價の低迷し居る

ことを認め得る。讀者は上記の表の研究により財界の推移を察知し得る許りか本年壬申の年の財界の境涯についてもハツキリした見解を抱くことが出来るであらう。漫然たる強氣を出してよいか悪いか蓋し思ひ半に過ぎるものがあらう。

因に太陽の黒點は昭和2年から漸次減少しつつある。〔中外羊毛通信第2028號〕

臺北支部より

支部長見元氏邸の觀測臺



上田支部より

小生は天界の十三號頃入會しましたので五冊程缺號して居る丈で他は揃つて居ます。(十三號以前の分)何れに致せ小生等には貴重な研究資料で一冊の缺本も不問に付されませぬ。昨年來は病氣の故を以て東京天文臺御引退の井

上四郎先生は我々アマチュアの一員にも偉大な足跡を残されました。我々の師表たるべき方だと思ひますが、どなたか先生の履歴や逸事に付て御存じの方がいましたならば天界へ御執筆願ひませんか、後進者のよき教訓になるかと考へられますが。

六月十一日 午後七時上田市小學校南校職員七名（尋四受持以上）來訪。屋上ドーム内で天體の觀望をしました。相憎スリットのシャフトピン折損し開閉不能につき即時職工を呼び寄せ修繕に加へ二時間程二重星、星雲其の他の觀測をしました。

七月三日午後九時上田小學校南校職員三名來訪されました、屋上ドーム内で天體の觀望をし分光器で標準型の星二三を觀測し午後十時過辭去しました。

宮 島 善 一 郎

白 杵 よ り

新緑の好時節となつてまいりました。

先生には愈々御健勝にて御多忙の御事と拜察申し上げます。

私、誠に長々と御無沙汰の限りに全く申し譯も御座るません、深く御詫び申し上げます。其の後も御蔭様にて相變らず先づ無事に消光いたし居ります。然し觀測の方は御世話様に毎月なつてゐます。太陽黒點以外は全く休測の有様に御座るます。尤も黃道光は四月になつてからと言ふものは非常なる淡さにて私にはスケッチ不可能の有様にてかくの如く四月に於て甚だ淡い現象は私のとぼしい觀測經驗に於て曾つてなかつた程ですから珍らしく不思議にて考へてゐます。

昨年秋の東天以後本年の西天にかけて例年に比し淡い點は確しかに注目に價ひすべき現象と信じて居ます。

變光星の方はぼつぼつ觀測を初めたいと思つてゐますが現在一九二九……三一にわたる觀測を整理してゐますのでこれを報告の上小山課長の御意見御希望等を承つてからにしたい積りでゐます。觀測星數は三十餘星、觀測回数總計は千二百餘個ですがよい觀測はなさうに考へてゐます。此後は量よりも質に於て良好なる様努力の覺悟をして居ます。

先日ブレテン數部を頂きましたがカーネギ研究所にて出版の黃道光記錄の目録を拜見いたしまして私の記錄が約二十五パーセントもありますので下撰定をただけ少々氣がとがめて居ます。

荒木課長より黃道光課主腦者會議を開催の筈だからその際は出席してほしいとの御便りを頂いて居ます、大變結構な事と存じ御喜び申して居ます。私のとぼしい經驗が

御役に立たうとは考へて居ませんが先生に御目にかかれまし皆様方と談笑出来る愉快さ等を想像などして居ます。参加出来ますかどうかは今からわかりませんが都合よろしければ末席に加へ頂きたく考へて居ます。

末筆にて失禮とは存じますが奥様よろしく御鶴聲願ひ上げます。

先は御無沙汰の御詫びまで

草々不一

一九三二年五月四日

龜井壽彦拜

倉敷天文臺信通

倉敷天文臺 荒木健兒

最近不意のところから Splendour of the Heavens 上下二冊を見出し、早速名譽臺長の御厚意により、藏書の中に加へられることになった。勿論古本であるが、大切に取扱はれてゐるのがありがたい。英文はむしろ平凡で大へんよみ易い。しかし、それよりもうれしいことは、四六倍駈 900 頁以上の大冊に挿繪が満載されてゐることである。どの頁にも必ず一個か二個かの寫眞や圖がある、ねころんで、お茶でもすゝりながら、挿繪ばかりを拾つて讀んでゐると、文字通り、天界に遊ぶ痛快さが味はへやうといふものである。おいで下さればいつでもお目にかけますから、皆さんで充分に利用していただきたい、御披露まで。

西天の金星が段々その形を變へていくところを、なるべく澤山撮つておきたいと思つて勉強した。その金星も太陽とすっかり仲よくなつてしまつたので、乾板を現像したのであるが、古往今來絶対にない大事件が突發した。——結果が如何にと、腕によりをかけて仕上げた乾板に、何も出て來ない。失敗？不思議！ガツカリして次の月を現像すると、月齡 8.7 の月の表面及び縁に近くかあいらしい明星が鎮座しますのである！！取枠の番號をあやまつて二重うつしにしてゐたことがはじめてわかつたが、それと同時に「金星の月面經過」といふ珍事件を産んでくれたのである。このとつてもすばらしいお手際には自分ながら寒心せざるを得ません。

去る六月十日の「時の記念日」に、岡山放送局からの講演を印刷しました。御希望の方に御わかちします。10 錢 (2 錢切手 6 枚) 但し、價の割につまらない

ものであることを御承知おき下さい。

この頃こそ梅雨でルンペンのまねで誠に不景氣であります、やがて夏休になり、第二極年に入り、天文講習會もありで、忙しく面白く、又多くの會員諸君とも御目にかゝれるのをたのしみにしてゐます。この月は、廣島の中村氏、津山の森本氏の兩支部長に御目にかゝりました。

來月4日は G. Calver の五周年忌を守りたいと思ひます。(VI. 29)

會員に關する報告

〔入 會〕

北 川 由 郎	東京市外大井町倉田3285
相 原 正	松山市港町一丁目 107 番戸
森 安 千 秋	香川縣觀音寺町上市區
鈴 木 龍 一	京都府久世郡宇治町西町日本レイヨン社宅
田 添 良 治	京都市上京區鞍馬口通寺町西入ル
南 條 行 造	鳥取縣八頭郡智頭町
久 保 雅 資	宮崎縣延岡町新小路

〔轉 居〕

新 崎 盛 敏	(鹿兒島市)	長田町 163 樺山方
植 田 又 一	(元 兵庫)	三重縣松阪町中町1900細野方
城 憲 三	(元 大阪)	兵庫縣武庫郡鳴尾村字北郷
林 興 生	(大 阪 市)	北區堂島濱通一丁目25
奥 本 治 郎	(元 京 都)	横濱市中區南太田1866檀椈寮
龜 井 壽 彦	(元 大 分)	京都市花山天文臺
上 條 清 人	(松 本 市)	松本市榮町
太 田 桂 次 郎	(名古屋市)	東區徳川町六丁目6
安 盛 光 藏	(元 滿 洲)	京都府愛宕郡雲ヶ畑小學校
調 所 武 夫	(京 都 市)	下京區二中寄宿舍
飯 田 勝 郎	(元 靜 岡)	名古屋市南區波寄小學校
小 松 彦 四 郎	(元 岡 山)	大阪市住吉區住吉町2168
阪 本 董 夫	(岡 山 縣)	笠岡商業學校
小 井 澤 庫 造	(元 奉 天)	營口旭街13
廣 谷 豐 藏	(大 阪 市)	東淀川區木川西之町二丁目19
秋 月 周 二	(元 兵 庫)	東京市外巢鴨町上駒込111

惠 藤 一 郎	(山 口 縣)	山口縣立教育博物館
中 間 庭 秀 男	(元鹿兒島)	福岡市今泉金田28九大佛教青年會館
佐々木元一	(岡 山 縣)	淺口郡西阿知町西原
金 坂 隆 造	(元 岡 山)	神戸市林田區大塚町三丁目12
日 野 要	(元 長 崎)	第一艦隊第一戰隊軍艦霧島短現
進 藤 四 朗	(元 佐 賀)	東京市外代々木本村817

會 報

天 文 同 好 會 評 議 員 會 記 事

去る六月十一日當天文同好會は評議員會を神戸市須磨區關守町改發香塲氏方に於て午後七時より開催す。

京都本部よりは山本會長を初め中村池田八木の四氏出席し大阪岡山廣島の各地よりは吉岡氏、水野氏、中村饒氏等の御出席者を得た。山本會長を座長とし主として長年の懸案たる會名改正の件につき協議して引き續きて行はる六月例會の爲早く八時に閉會す。

會名改正の件

- 1 會名を東亞天文協會 (Oriental Astronomical Association) に改める。
- 2 當分の間新舊名何れの使用も可とす。
- 3 會則は改正せず
- 4 改名は總會の承認を経て決定するものとす。

以 上

六 月 例 會 記 事

評議員會に引き續き午後八時過ぎより當地須磨浦小學校に於て六月例會を開く。會する者百餘名を數へ廣き講堂も狹きを感じる程の盛會であつた。

當日の山本會長の御講演は「爆發の宇宙」と題され廣大な宇宙に散在する美しくきらめく星や星霧の分布狀態や其の極り無き變化の有様に述べられたものであつた。